

南部真喜子（東京外国語大学大学院、博士後期課程、計画研究（B01）協力者）

“Heroism” among East Jerusalem youth: Some sociocultural impacts of arrest and detention on Palestinian community

本会議では、東エルサレムに住むパレスチナ人若年層が経験するイスラエル当局による逮捕と投獄の現状について、現地でのフィールド調査をもとに報告した。とりわけ、イスラエル政府の進めるユダヤ化政策によってパレスチナ人の居住権が制限されつつある東エルサレムにおいて、「この地にとどまるために抵抗する」と「この地にとどまるためにイスラエル側における自らの権利を模索する」ことのはざまで、抵抗の象徴としての投獄体験が若者たちの通過儀礼や英雄像の形成にどのように関連しているかを考察した。

会場からは、女性囚人からみた英雄像や、東エルサレムのパレスチナ人の間で近年増加傾向にあるといわれているイスラエル市民権の申請状況に関する質問があがった。

会議全体を通しては、主にエスノグラフィーを用いた研究発表を聴くことができ、問題設定や考察の際の視点において勉強になった。また、イスラエル、パレスチナ双方の報告者による合同パネルでは、学術的な問題にとどまらず、今日の政治社会情勢を反映する議論が展開され大変興味深かった。